

中国語教育学会 2023 年度第2回研究会

1、開催日時：

2023 年 12 月 9 日(土) 13:00～15:20

- ・オンライン (zoom) で実施。
- ・参加費無料
- ・前日までに申し込み者へ Zoom アドレスを送信。
- ・申し込みはこちら↓ (12 月 6 日 (水) 23:59 申し込み締切)

<https://forms.gle/LiY8Veg6rCMC9ehb6>



2、発表者とタイムスケジュール 発表 30 分+質疑応答 10 分=1 人 40 分

13:00～13:05	諸注意
13:05～13:45	蔡宜霖 (神戸市外国語大学・院) 台湾華語と「普通话」-文法的特徴を中心に-
13:50～14:30	劉礫岩(京都文教大学・非) 会話における「还是」質問の機能に関する研究
14:30～14:40	休憩
14:40～15:20	許 挺傑 (大分県立芸術文化短期大学) 大学の初修中国語の発音指導におけるブレンド型授業の設計と実践

<お願い>

- ・セキュリティの観点から、入室者の確認を致します。入室されましたら Zoom のお名前を「フルネーム_所属」に変更してください。
- ・発表中、お聞きになる方は必ず音声・ビデオをオフにしてください。質問はチャット欄への記入、あるいは発表終了後にマイクオンで音声でお願いします。

発表要旨

発表1

台湾華語と「普通话」-文法的特徴を中心に-

蔡宜霖 (神戸市外国語大学・院)

台湾で使用される中国語には、「台湾國語」「國語」「台湾華語」など、様々な呼び方があるが、本研究では「臺灣華語(台湾華語)」という呼称を採用する。台湾華語と「普通话」の相違については、1980年代前後から、発音、文法、語彙、社会言語学、心理言語学など、多方面からの研究が蓄積されている。

本発表では、先行研究による台湾華語と「普通话」の全般的な相違点を紹介し、台湾華語らしさの顕著な文法的特徴のうち、(1)アスペクトの「有」、(2)モダリティの「説」、(3)「V到」の拡張用法、の3つを取り上げて「普通话」との相違に関する初歩的な分析を行う。以下、それぞれの例を挙げておく。(括弧内は「普通话」である)

- (1) 我有瘦一點。(我瘦了一点)
- (2) 他們就覺得...很..很好笑說。(他们觉得很好笑)
- (3) 我真是丟臉到爆炸。(我真是太丟臉了)

本発表で使用する用例は『政治大學中文口語語料庫』からの検索例と、普通話話者への調査結果である。

=====

発表2

会話における「还是」質問の機能に関する研究

劉礫岩(京都文教大学・非)

本研究は、会話における「还是」による選択疑問文の機能を事例分析によって記述する。「还是」による選択疑問文はこれまで、受け手に複数の選択肢を提示し選択させる疑問形式として考えられてきたが、実際の会話データを吟味することによって、それ以上の機能を担うことが明らかになった。具体的には、①複数の選択肢に共通するクラスや可能性を尋ねることができる。これには、2つの選択肢がともに産出される場合と、2つ目の選択肢が産出されない場合がある。②「还是」疑問文は、質問者自身のW質問に後続し、曖昧でありうるW質問を明確化する。これによって先行のW質問を短縮でき、潜在的な話題競争に対処することができる。③質問者の先行する質問に対して、受け手が応答しない場合、「还是Y」を付け足すことによって質問の極性や中身を調整し、受け手の応答を追求することができる。

発表 3

大学の初修中国語の発音指導におけるブレンド型授業の設計と実践

許 挺傑（大分県立芸術文化短期大学）

大学の初修中国語の発音指導において、授業内学習・授業外の動画学習・授業外のオンライン課題等を組み合わせたブレンド型授業を設計し、3年間に渡って実践した。本研究では、ブレンド型授業導入前の対面授業（2018・2019年度）、ブレンド型授業導入前のオンライン授業（2020年度）、ブレンド型授業導入後のオンライン授業（2021年度）、ブレンド型授業導入後の対面授業（2022・2023年度）、この4種類の授業形態における学生の成績分布（S、A、B、C、F評価）について、カイニ乗検定を用いて分析した。結果、ブレンド型授業は、非ブレンド型授業と比べ、A評価が有意に多く、F評価が有意に少ないことが明らかになった。また、対面のブレンド型授業はオンラインのブレンド型授業と比べ、S評価が有意に多く、C評価が有意に少ないことが明らかになった。